

新たな総合5か年計画 答申素案に対するご意見と考え方

○意見募集期間 平成24年9月3日（月）～平成24年10月1日（月）

○意見の総数 8件（5名）

No.	該当箇所		意見・提言要旨	審議会の考え方
	編	項目等		
1	第2編 第2章	基本目標	「確かな暮らしが営まれる美しい信州」について、「確かな暮らし」はどのようなことを言うのか説明が必要。	ご意見の趣旨を踏まえ、答申では、「第2編第2章 基本目標」において、「確かな暮らし」及び「美しい」について説明を記載しました。
2	第3編	信州未来プロジェクト	プロジェクト例として示されている「アジア最高の山岳高原リゾートづくり」について、「アジア最高のリゾート」といえばビーチリゾートが連想されやすく、表現に違和感がある。山岳高原を活かして世界的な観光地づくりを目指すのであれば、「世界に通用する」という趣旨の表現を用いるべき。	「アジア最高の山岳高原リゾートづくり」は「世界的に評価される観光地域づくり」という趣旨で例示したもので、ご意見の趣旨を踏まえ、答申では、「第3編第1章 信州未来プロジェクト」において「世界水準の山岳高原リゾートの形成」と記載を変更しました。
3	第3編 第4編	信州未来プロジェクト 施策の総合的展開	「第1編第2章 長野県のポテンシャル」には「(1) 美しく豊かな自然環境」とあるが、長野県は国際的な知名度が低く、相当のPR活動をしなければ、外国人観光客を増やすことは難しい。 外国人から見て魅力的かどうかという視点が必要。	ご意見の趣旨を踏まえ、答申では、「第3編第1章 信州未来プロジェクト」及び「第4編第1章 暮らしを支える力強い産業づくり」の「(2) 強みを活かした観光の振興」において、世界水準の山岳高原リゾートなど魅力ある観光地域づくりや、ターゲットを絞った情報発信などによる国内外からの誘客促進に取り組む旨を記載しました。
4	第4編	施策の総合的展開	「第1編第2章 長野県のポテンシャル」には「(2) 大都市圏への近さ・交通の結節点」とあるが、長野県は国際空港から遠く、国際観光の視点で見ればメリットではない。 海外との往来を考えれば国際空港からの距離が重要であり、県内から国際空港までの無料シャトルバスの運行などを検討して欲しい。	ご意見の趣旨を踏まえ、答申では、国際観光に資する取組として、「第4編第5章 社会の活力を支える基盤づくり」の「(1) 高速交通・情報通信ネットワーク社会の推進」において、信州まつもと空港への国際チャーター便の誘致について記載しました。 なお、シャトルバスの運行などについては、県が計画案を策定する段階で検討していく課題と考えます。
5	第4編	施策の総合的展開	平成24年度より中学校で武道が必修化されたが、県立武道館がないため、「第4編第7章 未来を担う人づくり」の「(3) 生涯を通じて学べる環境づくり」に、県立武道館の設置を検討する旨を明記して欲しい。	ご意見をいただきました事項については、今後県が計画案を策定する段階で検討されるべき課題であると考えます。
6	第6編	計画を推進するための基本姿勢	本文中に「県民に正しく情報開示する」旨を明記して欲しい。 また、県の重要な案件については、メリットとデメリットを列挙した上で、広く県民に情報開示する方法を考えて欲しい。	「第6編 計画を推進するための基本姿勢」の「1 行政・財政改革の推進」では、「行政・財政改革方針」に沿って県民参加による県政を行う旨を記載しています。これは、県民参加による県政を行うため、県民への十分な情報提供や県民との意見交換が不可欠であるという考え方に基づいています。
7	全般	全般	新たな総合5か年計画と県が策定している各種計画との関係性が不明瞭であるため、明示して欲しい。	新たな総合5か年計画は、一つひとつの個別計画を包含する上位計画であり、「はじめに」では、今後5年間の県づくりの方策を明らかにする県政運営の基本計画である旨を記載しています。 なお、県が策定する計画案では、個別計画との関係性が明確になるよう工夫が必要と考えます。
8	全般	全般	「ポテンシャル」という言葉に代表されるカタカナ言葉や分かりにくい用語は、巻末の用語集で整理して欲しい。	答申では、最近になってマスコミ等で使われるようになった分かりにくい用語について、各項目で注釈を加えています。 なお、県が策定する計画案では、カタカナ言葉や専門用語などについて用語解説を設けるなど、県民に分かりやすい計画になるよう工夫が必要と考えます。